



はなみず で 鼻水が出るのはどうして

かぜをひくと鼻水が出るのは

かぜの元になっているのは、目に見えない小さな生き物の、ウイルスや細菌です。

ウイルスや細菌は、かぜをひいている人の口から出て、空気を伝わって、ほかの人の口を通して体に入ったり、ウイルスや細菌のついたものにさわった人の、手から、口を通して入ることもあります。

鼻の穴の奥のほうの、表面が湿ってぬるぬるとしたねん膜には、血管や神経が集まっており、たいへん、びん感になっています。

かぜのウイルスが鼻のねん膜につくと、体がいらぬものを取り除こうとしたり、病気をなおそうとするはたらきをはじめ、その部分がはれて赤くなります。

また、鼻の中には、ウイルスを殺すための白血球や、洗い流すための水がたくさん出ます。そして、ウイルスの死がいや白血球、こわれた鼻の細胞などが、鼻の中に出たたくさんの水とともに、鼻水として出るので。

かぜをひかなくても、鼻水が出るのは

泣いてなみだを流したときにも、鼻水が出てきます。これは、目と鼻の間が、細い管でつながっているためです。泣いたりすると、なみだが、目からこの管を流れて鼻に流れこみ、鼻水となって出てくるのです。（監修・保志 宏）

資料 こども図鑑「ひとのからだ」 学研/知育ずかん「ひとのからだ」 学研

